

写真部分をクリックすると『蘭花譜 木版画』の画像にリンクできます。

日本山岳会所蔵資料紹介 No.4-①

[資産番号] 10023
 [資料名] 「蘭花譜」
 [部門名] 絵画
 [寄贈者] 加賀行三
 [受入日] 1954年12月



当会への「蘭花譜」贈呈の書簡



バンダ・サンデリアナ Vanda sanderiana



リコトケイ Lc.No.106



←パフイオテイルム・ヨウフリア 'オヤマザキ'
Paph.Euphrasia 'Oyamazaki'



バンダ・ルソニカ Vanda luzonica

加賀正太郎 (1888 ~ 1954 年) の、幻の版画集・彩色図譜の傑作と称えられている「蘭花譜」である。学術上重要な植物図譜と、わが国の木版画の伝統技術が一体となった極めて貴重な画集だ。図譜は 104 枚から成り、84 枚は浮世絵の技法を受け継ぐ木版画、20 枚は油絵の印刷と白黒写真で構成されている。加賀は「蘭花譜序」のなかで、「蘭花譜は過去 30 年間に於ける余が温室の業績の一部の記録である」と述べ、編纂の経緯など詳細を記している。

油絵は中村清太郎、写真は岡本東洋、下絵は池田瑞月、木版の彫刻は東京の大倉半兵衛、摺師は京都の大岩雅泉堂に託した。使用する紙や顔料についても、「最高のものを」という思いから試行錯誤を繰り返して、1946 年に完成。第 1 輯として 300 部を限定刊行、そのうちの 100 部を海外の大学、博物館、美術館へ寄贈している。加賀としては世界に向け、「日本は第 2 次世界大戦で敗戦したが、誇る伝統文化は健在だ」と、発信する思いもあったようだ。

当会には、加賀の遺言により、「蘭花譜」の初刷り 1 部が小冊子「蘭花譜序」とともに寄贈された。国内において、初刷りをセットで有することは希少なことであり、相当の価値であろう。それほど貴重なものである。

わが国の最高の技術をもって編纂された画集のなかから、7~8 月号の 2 回にわたり数点を紹介する。紙面では美しい色彩を伝えることができなくて残念ではあるが、いずれ機会をみてすべてを展示・公開したいと考えている。HP (下記に詳細) からは、カラー版を見ることが出来る。また、加賀正太郎と「蘭花譜」については、会報「山」2012 年 6 月 (805) 号に詳しい。併せてご活用いただきたい。

なお、日本山岳会ホームページ→委員会活動→資料映像委員会→所蔵資料紹介へとアクセスすると、「会報ページそのもの」を拡大して見ることができます。ご活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。✉ jacshiry0102@jac.or.jp

◆編集後記◆

● 関東甲信越の梅雨が明けたという日、常念岳に登った。樹林帯は蒸し暑いものの、ひとたび森林限界を越えると、ものすごい風。暴風、爆風の域。ひとりでテントを張るのに苦労していると、隣の人が手助けしてくれた。雨脚も強くなり、槍穂高も押めず。梅雨明けと同時に、山にも青空が広がるというのは、現代の気象には通用しないのかとため息。しかしそれでも風や空気に、夏山シーズンが始まる気配があり、1年ぶりに夏の北アルプス稜線に立ったことを嬉しく思った。今夏もまた、皆さん各地の山々へお出かけと思いますが、ぜひ夏のレポートもお寄せください。

● 6月の総会で役員改選。会長はじめ、新しい顔ぶれになりました。(柏澄子)

日本山岳会会報 山 818 号

2013年(平成25年)7月20日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイツ四番町
 TEL 東京 (03)3261-4433
 FAX 東京 (03)3261-4441
 発行者 尾上 昇
 編集人 柏 澄子
 E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社